

研究・調査報告書

報告書番号	担当
379	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Risk factors for esophageal and gastric cancers in Shanxi Province, China:A case-control study 中国、山西省における食道および胃癌の危険因子	
執筆者	
Ying Gao, Nan Hua, Xiao You Han b, Ti Ding b, Carol Giffen c, Alisa M. Goldstein a, Philip R. Taylor a	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Epidemiol. 2011 Dec;35(6):e91-9.	
キーワード	
喫煙、アルコール、社会経済状況、食事	
要 旨	
<p>背景： 世界における上部消化管 (UGI) 癌の半分以上が中国で発生するが、中国においては喫煙と飲酒が上部消化管癌の危険因子とする証拠はほとんどない。</p> <p>方法： 山西 (Shanxi) 省において質問票をもとにした危険因子の検討を症例対照研究として行った。食道扁平上皮癌 (ESCC s) 600 例、胃噴門部腺癌 (GCA s) 599 例、胃非噴門部腺癌 (GNCA s) 316 例の症例および年齢・性をマッチさせた 1,514 対照例である。</p> <p>結果： 喫煙経験あり、飲酒経験ありは上部消化管癌との関連を認めなかった。ESCC リスクと高い生涯喫煙暴露量および EGNCA リスクとビール飲酒との間に中等度の関連が観察された。社会経済的あるいは食事要因のいくつかと 1～2 種類の上部消化管癌との関連が認められたが、なかでも 3 種すべての癌と最も強く一貫した関連が認められたのは、非常に熱い食物の摂取 (毎日摂取する群は全く摂取しない群に比べて 150—219% のリスク上昇) および新鮮な野菜と果物の摂取 (四分位最低群に比べて最高群のリスク減少は野菜摂取で 48—70%、果物摂取で 46—68%)。</p> <p>結論： 本研究で、喫煙と飲酒が上部消化管癌におよぼす影響はこの地域においては大きくなく、組織の熱損傷が主要な病因であることを再確認した。</p>	